

第4回日中若手化学者フォーラム

2013年3月の立命館大学における第3回日中若手化学者フォーラムに続き、今回、北京大学で開催された中国化学会第29年会において、第4回日中若手化学者フォーラムが開催され、中條筆頭副会長、川島常務理事、尾関雄治氏（榊原会長スタッフ：東レ）も参加した。

フォーラムは、“Molecular Imaging for Chemical Biology”のテーマの下、8月5日朝から夕方まで、北京大学内のYingjie Exchange Centerにて行われた。中條筆頭副会長の開会の挨拶の後、ケミカルバイオロジー研究で活躍する18名の日本・中国の若手研究者によって、1人20分の発表時間（英語による質疑応答を含む）で行われた。多くはバイオイ



フォーラム終了後に、日本・中国両国の講演者による集合写真

メージングに携わる研究者による発表で、蛍光やMRI、ラマン、生物発光、X線、リン光など多岐にわたるイメージング研究の発表がなされた。また、本フォーラムはオープン形式であり、聴衆には多くの学生や研究者も聴きに来ていた。フォーラム中、一般の聴衆からも活発に質問があり、日本側の発表者が講演した後の休み時間において、一般の中国人研究者から質問される様子が見受けられた。本研究分野における日本側・中国側の研究レベルは高く、互いに刺激し合えた良いシンポジウムになったと感じている。フォーラム終了後の夜には、参

加者全員での会食が行われ、親交が深められた。次の日の8月6日の午前中には、北京大学内のBIOPIC (Biodynamic Optical Imaging Center) にあるProf. Yanyi Huangの研究室を見学し、北京大学の研究レベルの高さを実感した。

本フォーラムにおいて、両国の将来有望なケミカルバイオロジー分野の若手の研究者が知り合えたことは、各々にとって大きな財産であり、今後の両国化学会におけるケミカルバイオロジー研究の発展に貢献すると期待される。最後に、開催にあたり多大なご尽力をいただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

日本側参加者 (9名)	花岡健二郎 (東大)* ¹ 、高岡洋輔 (東北大)、阿部洋 (北大)、平野智也 (医科歯科大)、水上進 (阪大)、田中克典 (理研)、服部満 (東大)、吉原利忠 (群大)、櫻田啓 (名大)
中国側参加者 (10名)	Yanyi Huang (Peking Univ.)* ² 、Chunhai Fan (Shanghai Inst. of Applied Physics, Chinese Academy of Science)、Xing Chen (Peking Univ.)、Xingyu Jiang (National Center for Nano Science and Technology of China)、Zhi Zhu (Xiamen Univ.)、Jing Zhao (Nanjing Univ.)、Peng Chen (Peking Univ.)、Qing Huang (Shanghai Inst. of Applied Physics, Chinese Academy of Science)、Wei Feng (Fudan Univ.)、Yan He (Hunan Univ.)

* 1 日本側リーダー

* 2 中国側リーダー、発表はせずに座長を務めた。
(敬称略、順不同)



中国側リーダーのYanyi Huang氏と日本側リーダーの筆者



北京大学にて、日本側の講演者

〔花岡健二郎 (東京大学大学院薬学系研究科)〕

© 2014 The Chemical Society of Japan